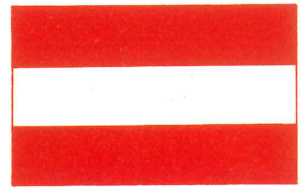


# 飛 騰

平成5年8月  
第6号



海援隊旗

## 坂本龍馬記念館に 期待するもの

元・龍馬生誕150年記念事業  
実行委員会副委員長 橋本邦健

開館から1年半が経過し、25万人を越える来館者を迎えて、いろいろと多くの話題が提供された。台湾・アメリカ・オーストラリア等々多数の国々の人達との出会いもあり、グローバルな龍馬らしいところが見え始めており、頼もしい限りである。

募金や建設にあたって大変お世話になった方々をご案内することが多いが、当初は1時間もすれば十分であった。もっとも、展示に関し、随分時間をかけ討議したなかで、団体客は45分で観覧出来るようにセットせねばならないとの意見があり、これに気を払うた面もあるので当然ではあると思う。しかし、最近では1時間半から2時間もかかり、それでもなお十分とはいえない状態である。ある東京の人は半日も滞館したと言う。それだけ内容が充実して来たことを物語っており、高知県及び記念館の職員の皆

様の努力の証であると思う。

この記念館建立にあたっての基本的な理念は、地域への貢献と同時に龍馬の遺徳を如何に偲ぶかを第1とし、次に龍馬の精神を次の世代の若者にどのように継承するかであった。

来館者の世代をみると、最近、青少年層が多く、熱心に一字一句を熟読しており、時に『ギクッ』とさせられる質問を受けることもある。東京のある大学生は卒業論文を書く為に来館し、何処の図書館より龍馬に関する書籍が多く、そして、手近にあると喜んで数日滞在したが、日々龍馬を愛する人々、とくに若者に認識されつつあることは顕著であり嬉しいところである。

今、世の中は保身と我田引水ばかり目につき、仁義も礼節も何処か遠くへ行ってしまった感がある。この時こそ、龍馬の精神を学び、研究して、第二・第三の龍馬の誕生を切望するものである。その『龍馬』の中核をなす基地として、より内容の充実と情報の集収に励み、多くの人々が気楽に立ち寄れる館として、その存在を確立することを期待し、願望してやまない。





「ぼくの龍馬・わたしの龍馬」

—坂本龍馬イメージ画展—のご紹介

学芸専門員 岡林 春雄

坂本龍馬は、新日本建設のために、世界に目を向けながら薩長連合、大政奉還など次々に明治維新への道を開く努力を続けてきました。

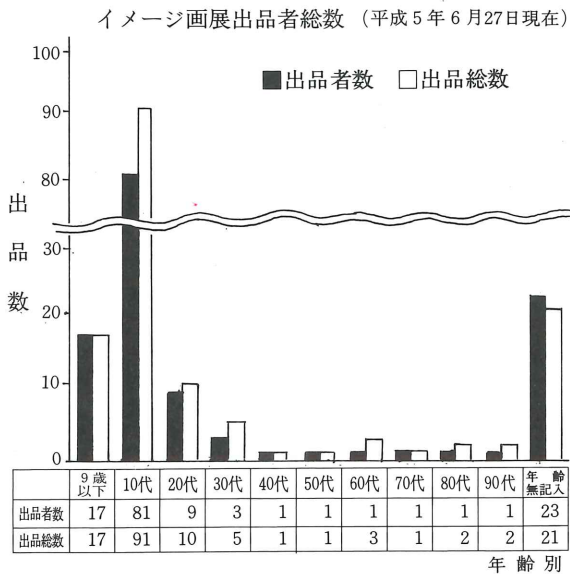
33年という短い青春を駆け抜けて行った土佐の巨星、坂本龍馬について、そのイメージを絵に描いていく過程で、柔軟な発想、進取の精神、機敏な行動力等、龍馬のもつ豊かな人間性に親しみをもって触れて頂くと同時に、龍馬の命がけの大偉業を次の世代に伝えて行くことを目的として、今年の夏休みは、龍馬のイメージ画展を開催することを企画致しました。

イメージ画展は7月25日（日）から8月31日（火）までの間、当館一階展示室にコーナーを設けて、ご来館のお客様に見て頂くことにしております。昨年の夏休み企画展示は、折しもNHKテレビアニメ「おーい竜馬」が放映中でもあり、この番組の中で用いられたセル原画をNHKエンタプライズからお借りして展示をし、好評でした。

今年は、皆様が描いた龍馬のイメージ画を、全国の龍馬ファンや高知県内の小・中・高・盲ろう養護学校の皆様に送ってください、とお願いしましたところ、多くの貴重な作品が続々寄せられました。

さて、お送り下さった作品について特長的なものを挙げてみますと、①全国的なスケールで寄せられました。北は北海道札幌市から、西は九州福岡市に至る日本全国の広い範囲の方々が描いて送って下さっています。②年齢層の幅が広いことも挙げられます。即ち右のグラフには示してありませんが、4歳から91歳にわたる方

々が、それぞれの思いを龍馬にこめて、線画や絵の具、墨絵等で生き生きと描かれています。特に10代の方々から寄せられた作品が圧倒的に多く、見ていてつい顔がほころぶ作品ばかりでした。



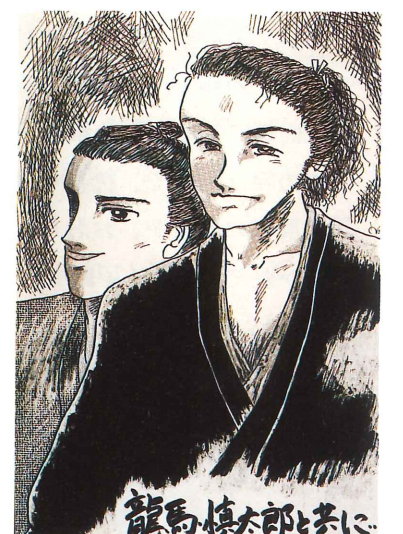
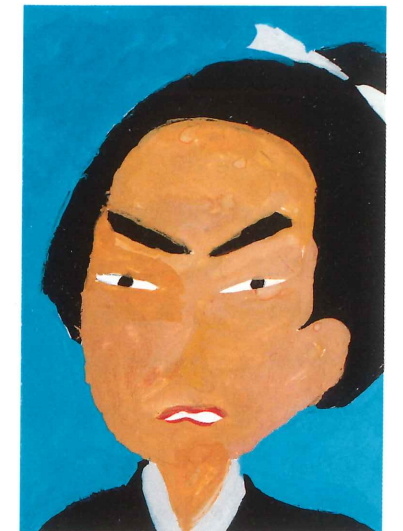
③作品は、ファンタジックな美しいものが多く、描かれています。

右の絵はほんの一例ですが、このような高度なセンスと技術を駆使して、龍馬への親近感をこめて描かれていて、感動させられます。

特に、小学生はテレビアニメの影響が絵に表れていて、かわいいイラストの作品が多いようです。また、中、高生や一般の方々の作品は、人物の配置、空間の生かし方、色彩感覚等どれをとってもすばらしいものでした。

急ぎ足でイメージ画展の全体像を見て来ましたが、日本全国からお寄せ下さった作品は、当記念館の貴重な財産として、当館に展示あるいは保管してある書軸等と同様に、今後大切に保存させて頂きます。

最後になりましたが、このたびイメージ画をお寄せ下さいました皆様に、この誌上をお借りして厚くお礼を申し上げます。





## 新しい資料の紹介

### ○ 才谷屋の「年譜書」寄贈

高知市 坂本英穂氏

これは郷土坂本家の本家才谷屋の9代八太郎直興が、嘉永2年(1849)、町方の求めに応じて差し出した年譜書である。

表紙とも15枚の和綴じ。内容は主として歴代当主の藩や町への貢献の様子や、町の年寄の役割などが、克明に描かれている。

### ○ 高松小笠の山水画 (粉本) 寄贈

南国市 棚野好夫氏

高松小笠は名を順蔵といい、安芸郡安田村(当時)の郷土。坂本龍馬の長姉千鶴の夫で文武両道に長じ、絵を楠瀬大枝に学んだ。

この絵は南面で、桃花や柳の芽の萌える早春の農村の風景が、おおらかに、しかも流麗に描かれている。(写真左)



### ○ 西郷南州の書軸 (印刷) 寄贈(写真右)

高知市 門脇幹雄氏

人生元不長 此身豈其輕 計利応計天下利  
求名須求万世名 况当虎吞孤噬際齷齪無用守  
其經 青山到处骨可理 唯為一朝卜枯榮 男

兎所要在機先処物 汝鞭試啓行 南州

### ○ 木戸松菊(孝允)の書軸(印刷) 寄贈

高知市 門脇幹雄氏

東天雲雨悪 西海屢揚波 一舸不避險 逆風  
入薩摩 松菊狂生

● この2幅の書軸の解説については、上田茂敏氏(東津野村)にご教示いただいた。

### ○ 坂本龍馬肖像画 紫香画 寄贈

八尾市 出張勝治氏

紫香とは、明治時代の日本画家だそうだが、公文菊僊の描く龍馬像と異なり、この龍馬の表情はたいへん厳しい。常に危険にさらされながらも、偉業を成し遂げねばならぬ龍馬の緊張と決意が、巧みに表現されている。

### ○ 大久保一翁の「地券」 寄託

愛媛県 郷田智成氏

大久保忠寛(一翁)は若年寄まで勤めた幕府の重臣で、外国の事情にも通じていたところから、龍馬に対して強い影響を与えた。

明治新政府は近代化政策の一環として、明治6年に地租改正を実施し、土地所有者に地券を発行した。これにより、政府は国家財政の基礎を固めることになる。

### ○ 海援隊約規 坂本龍馬筆(複製)

弘松潔氏のご好意により複製を作製させていただいた。この約規の後に、龍馬の書簡2通が収められている。

### ○ 土佐勤王志士遺墨集 購入

### ○ 月琴 購入

### ○ 長崎版画 阿蘭陀船図 購入

### ○ その他9点 購入又は製作

最後になりましたが、貴重な資料をご寄贈・ご寄託、あるいは購入・製作についてお世話になった方々に、厚くお礼を申し上げます。

学芸専門員 下元正清

## 〔講演記録〕

### 坂本龍馬と二十世紀 (5)

プリンストン大学教授 マリウス・B・ジャンセン  
訳・町田宗鳳 於 '91・11・14 高知

日本社会がそのゴールを目ざして、すでに歩み始めていることを私は存じてはいますが、まだまだ為すべきことが多々あるということは、皆様も御存じの通りでございます。もちろん、このことは日本に限らないわけで、私どものプリンストン大学でも女子学生を受け入れ始めたのは、わずか30年前のことでした。龍馬が姉の乙女への手紙の中で、妻のお龍の勇気と独立心を熱烈に褒めたたえています。彼はその手紙の終わりを「お龍は、たぶん拙者よりも力持ちかもしれません」と結んでいます。そのことから龍馬が女性の権利擁護者の先駆けだったと言ってもよいかも知れません。

開放された平等な社会には、数々の利点があります。この半世紀に起きた社会変革は、いわゆる「日本の奇跡」として、日本社会を大きく変容させて来ました。

次に龍馬の海援隊は、世界の通商でいまや大きな力を形成するようになった日本の原動力とも言うべき、巨大な商船艦隊のシンボルとしても、先駆者としても見る事ができます。海援隊がグラバーから長州のために鉄砲を購入した代わりに、戦後日本の艦隊は実用的貨物のみを輸送しました。加工貿易に基づいた繁栄によって、日本は武器取引などに依存することなく、二十一世紀の世界経済に向けて驚くべき重要なポジションに位置するようになりました。米国を含めた主要先進国の大半が、軍備に頼っています。このようなことは、富国強兵をスローガンにし、その強兵のために貧しい国に甘んじて

るを得なかった、大日本帝国時代の日本にも顕著でありました。それと対照的に、戦後日本は日米安保条約のために防衛費を押さえることができ、それは結果的に、日本が新世紀を迎えるに当たってきわめて有利に働いています。

坂本龍馬の現代との関わりで三つ目のポイントは、彼の銅像、そしてまたこの記念館が、まさしく海に面しているということに関係があります。彼の時代においては、このことは二つの事実を意味しました。第一に、「地方より藩」の考え、そして「国よりも天下、日本全体」のために立ち上がり、地元の反対と処罰を受けることを覚悟することでした。その頃、高知から大阪へ、あるいは大阪から江戸と長崎へと開かれた航路のおかげで、龍馬は単に土佐のことよりも、日本全体の国事のために活躍することになりました。

今日、日本は海の向こうの世界に顔を向けつつあります。そのプロセスはやっといま始まったばかりで、完成までには長い道路が必要です。日本は未だに天下世界ではなく、国内事情にばかり目を向けている。というように世界中で不満を買っています。外国の世論調査や新聞報道によると、日本のイメージは極めて偏狭なものであります。

では、どうすれば世界の新たな期待に応えられるのでしょうか。かつては、「開国」といえば日本を開くことのみを意味しましたが、「国際化」という言葉も、しばしば日本が自ら現代世界の問題を理解し、それに真正面から取り組もうとするよりも、むしろ諸外国に日本を理解してもらおうとする、受け身の意味でしか解釈されていないように思われます。

(以下、次号に続く)

手紙から読みとる

## 龍馬の人間性

館長 小 椋 克 己

坂本龍馬は、隣国「清」が西欧の属国に成り下がった事情を承知して、日本の独立を真剣に考えました。彼は、その為に「倒幕」「大政奉還」を大目標として掲げ、手始めに「薩長同盟」を成立させ、受け皿としての「船中八策」を示し、暗殺1か月前大政奉還を実現させました。

その大事業の中で見せた柔軟な発想、周到な計画、人脈の活用などに魅力を感じ、そのような指導者を期待、自らにその能力を求める気持は何時の時代も変わりません。そうした龍馬のキャラクターは、彼が書き残した約130通の手紙によって、さまざまな角度から実に鮮明に描き出されています。

龍馬は実に筆まめで、一日に何通もの手紙を書いたり、一つの手紙にいくつもの項目を盛り込み、奇抜な喩えを引き、ふりがなを振り、何とか相手に理解してもらおうとしたり、名残を惜しむように追伸を重ねたりしています。特に姉の乙女に宛てたものではこの特長が良く現われています。

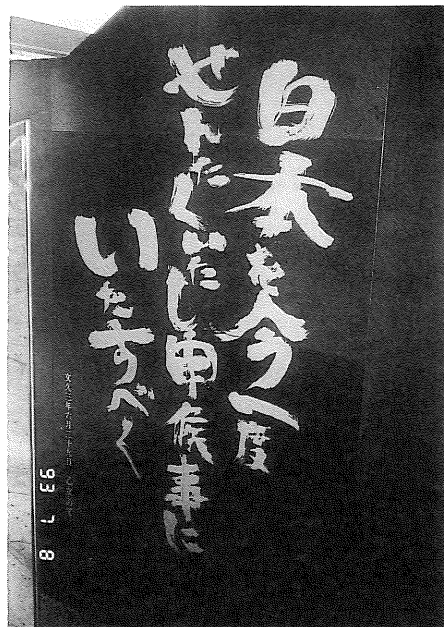
「日本<sup>ニッポン</sup>を今一度せんたく致し申候事ニいたすべく……」は、文久3年6月29日姉乙女に宛てて書かれた手紙の代表的な一部分です。

その年の5月、長州が外国船を攻撃して逆に攻め込まれ、国土の一部を占領されたにもかかわらず、幕府の役人が外国船の修復に手を貸し賄賂まで取ったことに腹を立て、『そんな役人は打ち殺し「日本を洗濯する」必要あり』と訴えています。そして、わざわざ「ニッポン」とふりがなを添えています。日本という意識がま

だ一般には浸透していない時代、「徳川の国」を早く「独立国ニッポン」にしなければという思いが、このふりがなになったのでしょう。

この手紙を書いたのは、師匠の勝海舟の計らいで、開明派の第一人者越前福井藩主 松平春嶽に会い、神戸の海軍塾の夢が具体化し始めた時期で、「自分も芽が出て、大名も味方してくれ、人も金も自由になる」と気宇壮大になっている時です。

このように、自らの大目標を「日本の洗濯」というぴったりの言葉に集約する龍馬の特技について、彼の敬愛する大久保一翁や横井小楠らは「大意を把握し得る人」と評価していますが、今の日本にそのまま当てはまりそうな、時局に関する表現はまだまだ数多くあります。



その一つ「私一人にて五百人や七百人の人を引て、天下の御為するより廿四万石を引て天下国家の御為致すが甚よろしく……」（慶應3年6月24日乙女、おやべ宛）。「勤王党だけでなく、その対極にある土佐藩の役人たちも一緒になって『日本』を考えなければ……」という主張は、この手紙の九日前まで、乙女のいう「姦

吏（悪い役人）」後藤象二郎と共に、次の時代のメニュー「船中八策」を練っており、さあいよいよ「大政奉還」にかかるぞというタイミングから出たもので、これが乙女への最後の手紙になりました。めりはりのあるキャッチフレーズに、龍馬の大局を見る自信とゆとりを感じます。「どうなるか」ではなく「どうするか」という積極性が彼の業績の密度を上げました。

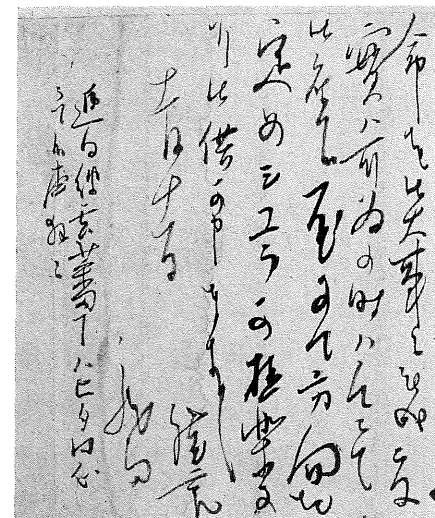
そういう意味で、龍馬にとって土佐の自己満足的消極性には我慢ができなかったようで、励ましの(?)エールを送っています。「じつにおくにのよふな(土佐のような)所にて、何の志しもなき所ニぐずぐずして日を送(る)ハ、実ニ大馬鹿ものなり」(慶應元年9月9日・乙女、おやべ)。「他国ニ骨折り候人ニハなんぼあほふ(阿呆)と云(う)人でも、お国(土佐)の並々の人の及(ぶ)所でハこれなく……」(慶應3年6月24日・乙女、おやべ)。「男児を育(て)るハ誠に心得あるべし、とても御国の育(て)方にてハ参り兼候べしと、実に残念……」(慶應2年12月4日・権平一同)など。このエールにもまた、今日性があるのが残念です。

亀山社中、薩長同盟、船中八策、大政奉還建白、蝦夷开拓など、龍馬の業績の豊かさは発想の柔軟さ抜きには考えられません。

「決まりきった学問」をしなかった白生地のような頭脳に、示唆に満ちた先覚者の言葉を消化して、龍馬はフリーハンドで構想を描きました。これが手紙の中の自由な表現、造語に結びつきます。

前述「日本の洗濯」の他、勝海舟の弟子になって「エヘンがお(顔)」、「やじ馬ハさしてく札(れ)まいか」と幕府長州海戦の観戦を木戸に依頼、陸奥宗光に「世界の咄(はなし)しも相成り申す可きか」と次ぎのステップを暗示し、

広島藩の林謙三に「シュラ(修羅)か極楽かに御供申す可く……」の言葉を残し、その4日後この世を去ります。



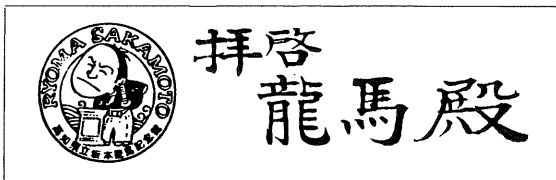
坂本龍馬の手紙は、彼の語りかけを聞くように読むことができ、それによって龍馬の人間的魅力を具体的に感じることができます。これが他の歴史上の人々と違うところでしょう。

これも、高知出身の作家、宮地佐一郎さんが労作「坂本龍馬全集」に、すべてを読み下し取めて下さったおかげ。これを読んで魅力に取りつかれた一人として、感謝申し上げます。

### 入 館 状 況

平成5・7・6現在(開館以来601日)

○総入館者数	257,092人
○最多入館 平成5・5・3	3,700人
○最少入館 // 5・1・11	49人
○本年度最多入館	
平成5・5・3	3,700人
○本年度最少入館	
平成5・1・11	49人
○本年度1日平均入館者数	452人



- お龍さんと、すてきな旅行をしたでしょうね。うらやましいです。私もがんばります。だから見守っていて下さい。  
AKira & Hinako 龍馬さんは、強くてたよりのある人なので大すきです。

(4月2日 沖縄県 N・H 女性)

- 今日春休みを利用して、三家族で来ました。手島右卿の書が良かったです。最高!!  
あの龍馬の年齢の働きが良く解って面白かった。もう少し時間が有れば良かったです。血のついた掛軸が心にのこっています。血液型は何んでしょうか。

(4月3日 高知県 I・H 男性)

- (リーダー) 龍馬の生き方を学び、今から自分の人生に希望ができた!  
(サブリーダー) 龍馬の事は全く知らなかった。ここに来て、いろいろな事を学び勉強になった。

(4月30日 福岡県 ガチョウ倶楽部)

- 去年12月6日以来久々に来ました。龍馬さんを尊敬し始め、かれこれ12・3年になります。家では「龍馬、龍馬」と言っていたせいか、今では家族全員が龍馬さんに興味を持っているみたいです。何だかうれしいです。

今、私はF工務店の独身寮の寮長をやっています。住み良い寮にするためホン走しております。今までの寮のふん囲気とは違ったものにしたいと思っております。

(5月1日 岡山県 K・K 男性)

- 坂本龍馬記念館を創られた皆さんへ。

すばらしい記念館をお創りいただきましてありがとうございます。展示を見ている間、思わず涙が落ちて困りました。

何時の日か、又お訪ねしたいと思います。

(5月23日 北海道 A・K 男性)

- 私事ですが、本日6月8日は誕生日です。26歳になってしまいました。去年も誕生日に来ました。今日は友人が急に来れなくなってやめようかと思いましたが、日帰りでこれを書きに来ました。龍馬さんは、33歳という若さで暗殺されてしまったんですネ。私もあと7年すれば同じ年齢です。あなたに負けないよう、これからも一生けんめい生きていきたいです。又7月か8月頃来ます。その時、これを読みたいと思ってます。

(6月8日 京都府 K・N 女性)

#### 題字「飛騰」について

文久元年(1861)10月11日、龍馬は剣術修行のため、1か月の国暇を得て、讃岐丸亀の矢野市之丞の道場へ旅立った。この日、樋口真吉は、日記に「坂龍飛騰」と記した。

龍馬は更に国暇延長の許可をもらい、極秘裡に長州へ赴いた。彼は武市半平太の久坂玄瑞宛親書を携えていたのである。

長州萩に着いた龍馬は、久坂玄瑞を訪れて半平太の親書を手渡し、国事について会談する。

今まで一介の武芸者に過ぎなかった龍馬が、この旅を機に勤王の志士へと脱皮していくのである。矢野市之丞の所へ行つた目的を予め知っていた樋口真吉は、龍馬への期待をこめて「坂龍飛騰」と記したのであろう。翌2年3月、龍馬は脱藩する。 (下元書)

館だより “飛騰” 第6号  
平成5年(1993)8月1日発行  
発行所 高知県立坂本龍馬記念館  
〒781-02 高知市浦戸城山830  
TelTel (0888) 41-0001